

2月19日

公立高校の出願開始

－受験においては職員も団体戦－

公立高校の出願が始まりました。瑞浪北中学校では、4年生職員（どの学年にも所属しない職員をこう呼んでいます）が、全ての出願書類を携えて各高校に出発しました。

中山教頭は多治見市にある3つの高等学校へ。伊左治教頭は岐阜方面の2つの高等学校へ。川口主幹教諭は中津川市にある3つの高等学校へ。古川教務主任は土岐市瑞浪市の二つの高等学校へ。そして、山路生徒指導主事は恵那方面の4つの高等学校へ。約半日かけてそれぞれの高校を回り、出願を完了させました。

出願といっても書類を高校側に出すだけではありません。高校側の細かなチェックを受けてくるのです。場合によっては他の中学校からも出願にきていたり、たくさんの生徒の書類を抱えた学校が先に提出したりすると、かなり時間がかかります。

高校側もできるだけ迅速に処理するように努めてくれますが、やはり受験の大切な書類だけに手は抜けません。高校は書類を丁寧に確認し、出願をした中学校の職員はそれが終わるまでただひたすら待つことになるのです。

万が一、不備があった場合は受理されませんので、出願に赴いた職員から学校に連絡が来ます。先の調査書作成委員会では、全職員で全ての書類を確かめたわけですので、学校に残る職員は緊張して出願に行った仲間の帰りを待っています。私たち職員にとっても、受験は団体戦と言えるでしょう。